

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	総合政策学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「関学総政宣言」の社会への浸透を図る	→学部独自HPの更新・利用状況、広報誌、公開シンポジウム開催回数・参加人数、オープンキャンパス参加人数、高校訪問回数	B	B	B	B	/
2. 学部の将来構想を策定する	→将来構想委員会等の開催回数、答申の有無	B	B	B	B	/
					☆	

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	<p>総合政策学部は「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」を基本理念に、「複雑かつ高度化した現代社会に潜む諸問題を発見・研究、ならびに問題解決及び政策立案能力を持った人材の養成」を目的に掲げている。2009年度には都市政策学科と国際政策学科を増設、従来の総合政策学科・メディア情報学科とあわせて4学科体制を導入したが、学科ごとに人材養成ならびに教育研究活動について、以下の目標を設定した。</p> <p>①総合政策学科：技術的環境の変化とマクロな社会変化に対応できる総合的な視野、問題解決能力、政策立案能力を持ち、地球規模で自然・文化・社会環境を維持発展させながら、国際社会に貢献できる人材を養成する。</p> <p>②メディア情報学科：デジタル・ネットワークを基盤とする豊かな社会を築くため、日々進歩する情報通信技術と情報メディアの本質を理解し、様々な課題について人間重視の視点から問題解決をめざす。</p> <p>③都市政策学科：都市空間・環境の制御技術とともに社会開発政策や都市経営政策に関する知識と能力を持ち、多様な都市問題を解決できる人材を養成する。</p> <p>④国際政策学科：国連が掲げる平和構築、国際発展と開発、人権の擁護等の諸課題に対して、総合・専門的な見地から政策を構想・立案し、実践的な問題解決能力を備えた人材を養成する。</p> <p>これらの目標は概ね達成しつつあるが、さらなる進展をめざして、2012年度は個別的学問領域を横断的かつ重層的に構造化したカリキュラム改正を進め、2013年4月から実施しているところである。</p>
目標2	<p>将来構想検討委員会等を中心に、学部開設以来の経緯をふまえながら、アドミッション・ポリシーにそった教育研究活動の展開に向けた各種事業を計画、実施している。</p> <p>具体的には、(1) 2013年度から大幅なカリキュラム改正を実施した。このカリキュラム改正においては、学科ごとの教育体系を整備するとともに、リベラル・アーツ教育と専門職業人養成教育の両立を目指すものである。(2) 学内研究会等を活性化させるとともに、リサーチ・フェアやリサーチ・コンソーシアム等の活動を通じて、教育・研究体制を充実させた。(3) 各種刊行物や学部ホームページを通じて、学部の理念の普及や研究成果の発信に努力した。</p>
備考	<p>今後も学部の理念や教育・研究成果の公開に努力するとともに、学部内の研究体制を整備して、“総合政策”という新しい研究分野に関する先進的な研究を進めていく予定である。同時に、学外への社会貢献についてもさらに努力を重ねていく。</p>